

第6回戦術委員会確認事項

2016年3月16日
全日本金属産業労働組合協議会
(金属労協/JCM)

金属労協は、集中回答日である本日午前11時より第6回戦術委員会を開催し、集計登録組合を中心とする回答の受け止め、ならびに今後、回答を引き出す組合におけるJC共闘の進め方を以下のとおり確認した。

1. 2016年闘争は、国内外の経済が先行き不透明感を増す状況下で、デフレ脱却と経済の好循環実現に向けて、賃上げに対する社会的要請が強まる中での交渉となった。

金属労協は、今次闘争を、「人への投資」と「家計の改善」を通じて、デフレ脱却、「経済の好循環」の達成、世界経済のさまざまな変動に耐えうる強固な国内経済の構築を図り、もって勤労者生活の安定と向上を実現するための取り組みと位置づけ、闘争を展開してきた。2014年、2015年に引き続き、JC共闘が一枚岩となって、継続的な賃上げと底上げ・格差是正の必要性を訴えてきた。

これに対して、経営側は、デフレ脱却や経済の好循環を実現するための「社会的要請」には一定の理解を示しながらも、国内外の経済の先行き不透明感、低い物価上昇率、2年連続となる賃上げ実績や「人への投資」の選択肢は賃上げだけではないこと、などを主張し、厳しい姿勢に終始し、交渉は難航を極めた。

2. 本日12時30分現在、大手を中心とする集計登録組合では、39組合が回答を引き出した。

本日晒された回答は、われわれの要求を満たすものとはいえないものの、各組合がぎりぎりの交渉を行った結果、ほとんどの組合が賃上げの回答を引き出し、3年連続となる「継続的な賃上げ」を実現することができた。

① 賃金については、これまでに回答を引き出したほとんどの集計登録組合が、ベアをはじめとする賃上げを獲得し、現段階で、賃上げ額の平均は1,488円(36組合)となっている。3年連続となる「継続的な賃上げ」によって、デフレ脱却と経済の好循環を実現するという今次闘争の意義からみて、一定の役割を果たすことができたを受け止める。

金属労協全体を見ると、賃上げ要求は、総じて規模の小さい組合ほど、要求額が高くなっており、金属労協の賃上げ要求方針、および「底上げ・格差是正」を掲げる今次闘争の趣旨を反映したものとなっている。今後回答を引き出す中堅・中小組合は要求趣旨を踏まえ、賃金水準の底上げ・格差是正を実現するよう最大限努力する。

② 一時金については、企業ごとの業績を反映し、昨年を上回る回答を引き出した組合が8組合、昨年と同水準の組合が4組合、昨年を下回る水準の組合が7組合となった。今後、回答を引き出す組合についても、引き続き組合員の生活の安定を図り、その努力や成果を踏まえた適正な配分を求めていく。

③ 企業内最低賃金協定については、現時点で25組合が水準引き上げを獲得、月額では平均1,676円となっており、大きな前進が図られた。企業内最低賃金協定は、組合員のみならず、未組織労働者・非正規労働者の賃金の底上げに寄与するものであり、労働組合の社会的責任を果たすことができた。今後の交渉・協議で決定する組合における要求の実現に向けて、強力に取り組んでいく。

④ 非正規労働者に関する取り組みについては、本日段階で、一部の組合が具体的な前進回答や経営側の前向きな見解を引き出している。引き続き労使協議を行う中で、具体的な前進を確実に引き出すよう、取り組みを強化する。

3. 2016年闘争の最重要課題は、継続的な賃上げと底上げ・格差是正である。金属労協は、すべての組合における賃上げ獲得を図るべく、中堅・中小組合の回答状況を集約および公表し、後に続く組合の取り組みをJC共闘全体で支えていく。

4. 次回戦術委員会は、4月4日(月)午前10時より開催する。

以上